

ビット・トレード・ワン社提供のラズベリー・パイ専用 学習リモコン基板(型番: ADRSIR)用のツール
著作権者:(C) 2015 ビット・トレード・ワン社
ライセンス: ADL(Assembly Desk License)

利用する方のことを考え、3種のツール(第2版)を提供します、それぞれ独立していますので、使いやすいツールを1つ使用願います。
1版リリースでは、python2、python3が混在していましたが、ネットへの投稿を参考にさせていただき、python3に統一しました。
(ネットで投稿してくださった方、ありがとうございます)
尚、これらのツールは、エラー処理が不十分です、特に、学習リモコンにリモコンデータを学習していないときにはエラーのため、不安定な動作になります、事前に、学習願います。
また、ラズパイ3の使用の時、十分余裕のある電源の使用を、お勧めします。

弊社として上記のこのツールを公開する他、下記の有志ツールも発表されております。

ADRSIR(ビットトレードワン製赤外線送受信機)用のライブラリ
<https://github.com/tokieng/adrsirlib>

ツール修正内容

- 1: IR-remocon02-commandline.pyの"t"コマンド不具合修正
- 2: ツール1,2,3の使用言語をPython3に統一
- 3: IR-remocon03-dirbase.pyにラズパイ3のリモコンデータファイルから、学習リモコン経由で直接、赤外線を送出するコマンド"t"を追加

1)コマンドベース ツール

マニュアルコマンド入力により、動作を確認しながら、ファイル単位で動かします、デバッグの時便利です。

実行方法: ./IR-remocon01-commandbase.py

```
# ****コマンドベース 実行コマンド ファイル単位
#読み込みコマンド(r:read):、読み先の記憶No.(memo_no)、保存ファイル名(filename)
#書き込みコマンド(w:write):、書き先の記憶No.(memo_no)、読みファイル名(filename)
#送信コマンド(t):、読み込みファイル名(filename)
```

2)コマンドラインツール

LINUXのコマンドラインから、パラメータベースで動かします、シェルスクリプトに習熟している人に適します。

実行方法: ./IR-remocon02-commandline.py r 0

```
*****使い方:コマンドライン ツール
# 呼び出し例 python /home/pi/I2C0x52-IR/IRPI.py r 0 "5D01AB00190016001700..."
#学習リモコン→ラズパイ 読みコマンド(r):、メモリNo.(0-9)、応答:データ argc==3
#学習リモコン←ラズパイ 書きコマンド(w):、メモリNo.(0-9)、データ argc==4
#学習リモコン←ラズパイ 書きコマンド(t):、データ argc==3
```

3)ディレクトリ単位処理ツール

ディレクトリ単位に管理するときに便利です、NODE-RED等の環境から利用しやすくしています。

実行方法: ./IR-remocon03-dirbase.py rd testdir

```
#PIC→ラズパイ ディレクトリ読みコマンド(rd:read directry):、保存ディレクトリ名(dir_name)
#PIC←ラズパイ ディレクトリ書きコマンド(wd:write directry):、読みディレクトリ名(dir_name)
#PIC←ラズパイ ファイル送信コマンド(t:transfer):、読みファイル名(filename)
```

ファイル名: nod-red-program***.json
NODE-REDのサンプルです、このファイルを、NODE-REDにコピーして使用してください。



